

Infosys と Anthropic、複雑・高度規制産業における AI 活用と価値創出を加速する戦略的協業を発表

通信業界を皮切りに、専任の Anthropic Center of Excellence (CoE) を設立。本取り組みは、今後、金融サービス、製造業、ソフトウェア開発分野へと展開されます。

Infosys Topaz™ と Anthropic の Claude モデル (Claude Code を含む) を組み合わせることで、複雑なワークフローの自動化、ソフトウェア開発の迅速化、さらに業界横断でのエージェント型 AI ソリューションの構築を可能にします。

2026 年 2 月 17 日 インド・ベンガルール発

Infosys (NSE、BSE、NYSE : INFY) は、次世代デジタルサービスおよびコンサルティングのグローバルリーダーとして本日、AI の安全性と研究を専門とする Anthropic との戦略的協業を発表しました。本協業を通じて、通信、金融サービス、製造業、ソフトウェア開発といった幅広い分野の企業に向けて、高度なエンタープライズ向け AI ソリューションを共同で開発・提供していきます。

本協業は、通信業界を起点に、業界特化型の業務に対応した AI エージェントの構築・展開を目的とする専任の Anthropic Center of Excellence (CoE) を設立することで開始されます。今後は、金融サービス、製造業、ソフトウェア開発分野へと順次展開していく予定です。

本協業の中核には、Anthropic の Claude モデル (Claude Code を含む) と、Infosys の AI スイートである Infosys Topaz™ を統合する取り組みがあります。これにより、企業は複雑なワークフローの自動化、ソフトウェアデリバリーの迅速化を実現するとともに、規制産業が求めるガバナンスと透明性を備えた形で AI を導入することが可能になります。

本協業は、AI を単なる効率化の手段にとどめず、真の変革的価値を生み出す原動力とするという、両社の共通したコミットメントを反映するものです。Infosys と Anthropic は、深い業界知見、最先端の AI 技術、そして大規模なエンジニアリング力を一体化したアプローチを通じて、企業のオペレーティングモデルそのものを再構築することを支援していきます。

本協業における重要な焦点の一つが**エージェント型 AI (Agentic AI) **です。これは、単に質問に回答するだけでなく、保険請求の処理、コードの生成およびテスト、コンプライアンスレビューの管理といった、複数ステップにわたる業務を自律的に遂行する AI システムを指します。Claude Agent SDK などのツールを活用し、Infosys と Anthropic は、単発的な対話にとどまらず、長期間にわたる複雑なプロセスを継続的に実行できる AI エージェントの構築を支援します。

また、本協業は、Infosys Topaz™ と Claude を組み合わせることで、レガシーシステムのモダナイゼーションを加速し、移行期間の短縮や老朽化したインフラ更新に伴うコスト削減にも貢献します。

これらのエージェント型 AI の能力を基盤として、Infosys と Anthropic は、特定の業界および業務機能に最適化されたカスタム AI エージェントを開発していきます。

>**通信業界では**、AI エージェントがネットワーク運用のモダナイゼーション、顧客ライフサイクル管理の効率化、サービス提供品質の向上を支援します。これにより、世界でも特に運用が複雑かつ厳しい規制が課されている業界の一つである通信分野に、インテリгентな自動化をもたらします。

>**金融サービス分野では**、AI エージェントがリスクの検知および評価を迅速化し、コンプライアンス報告の自動化を実現するとともに、よりパーソナライズされた顧客対応を可能にします。例えば、顧客の全口座履歴や市場環境を踏まえた金融アドバイスの提供などが可能になります。

>**製造およびエンジニアリング分野では**、Claude が製品設計やシミュレーションを加速し、研究開発 (R&D) のリードタイムを短縮します。これにより、エンジニアは生産前段階でより多くの設計検証を行うことが可能になります。

>**ソフトウェア開発分野では**、開発チームが Claude Code を活用し、コードの作成、テスト、デバッグを行うことで、設計から本番環境への移行をより迅速に進めることができます。Infosys ではすでに、自社の Exponential Engineering 組織において Claude Code の活用を開始しており、社内での専門知識やベストプラクティスの蓄積を進めています。これらの知見は、今後の顧客向けプロジェクトにも直接活かされる予定です。

Anthropic 共同創業者兼 CEO ダリオ・アモデイ氏 は「デモでは機能する AI モデルと、規制産業で実運用に耐える AI モデルとの間には大きな隔りがあります。そのギャップを埋めるためには、業界に対する深いドメイン知識が不可欠です。Infosys は、通信、金融サービス、製造業といった重要な分野において、まさにその専門性を有しています。Infosys の開発者はすでに Claude Code を活用して開発を加速させており、高い精度、コンプライアンス、そして深い業界知識が求められる分野向けの AI エージェントを構築しています。」と述べています。

Infosys CEO サルル・パレク は「AI は単にビジネスを変革するだけでなく、産業の運営やイノベーションの在り方そのものを再定義しています。今回の Anthropic との協業は、エンタープライズ AI を次の段階へと進め、企業が価値を引き出し、よりインテリгентで強靱かつ責任ある存在へと進化することを可能にする戦略的な一歩です。インテリгентなリスク管理とコンプライアンスを通じた金融サービスの高度化から、AI 主導の設計・製造によってエンジニアリング企業が競争優位を確立することまで、Infosys と Anthropic の知見を結集し、グローバル企業における AI 価値の実現を加速していきます。」と述べています。

Infosys について

Infosys は、次世代デジタルサービスおよびコンサルティング分野におけるグローバルリーダーです。33 万人を超える当社の社員が、人の可能性を最大限に引き出し、人々、企業、そしてコミュニティに新たな機会を創出することに取り組んでいます。Infosys は、世界 63 か国において、お客様のデジタルトランスフォーメーションを支援しています。

グローバル企業のシステムおよび業務運営を 40 年以上にわたり支えてきた豊富な実績を背景に、Infosys はクラウドと AI を原動力とするデジタルトランスフォーメーションの実現に向けて、お客様を的確にリードしています。AI ファーストのコアを提供し、スケール可能なアジャイル・デジタルによってビジネスを強化するとともに、イノベーション・エコシステムを通じたデジタルスキルや専門知識、アイデアの移転を通じて、常時学習による継続的な進化を推進しています。

また、Infosys は、強固なガバナンス体制と環境持続性を重視するとともに、多様な人材が活躍できるインクルーシブな職場づくりに深くコミットしています。

Infosys (NSE、BSE、NYSE : INFY) が貴社の次なる挑戦をどのように支援できるかについては、www.infosys.com をご覧ください。

セーフハーバー条項

本リリースに含まれる、当社の将来の成長見通し、ならびに将来の財務または業績に関する記述の一部は、1995 年米国私的証券訴訟改革法 (Private Securities Litigation Reform Act of 1995) に基づく「セーフハーバー条項」の適用を受ける将来予測に関する記述です。これらの記述には、実際の結果または成果が大きく異なる可能性がある、さまざまなリスクおよび不確実性が含まれます。

これらのリスクおよび不確実性には、事業戦略の実行、優秀な人材を巡る競争の激化、人材の採用・定着能力、賃金の上昇、社員のリスクリングに向けた投資、ハイブリッドワークモデルの効果的な実装、経済環境および地政学的状況の不確実性、AI や生成 AI を含む技術革新、移民規制の変更を含む複雑かつ変化する規制環境、ESG に関する取り組み、資本配分方針、市場でのポジションや将来の事業、収益性、流動性、資本資源、M&A を含むコーポレートアクション、ならびにサイバーセキュリティに関する事項などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

将来予測に関する記述と実際の結果または成果との差異を生じさせる重要な要因については、2025 年 3 月 31 日を期末とする会計年度の Form 20-F 年次報告書を含む、米国証券取引委員会 (SEC) への提出書類において、より詳細に記載されています。これらの書類は www.sec.gov にてご覧いただけます。

Infosys は、必要とされる場合を除き、当社または当社を代表して随時発表される将来予測に関する記述について、更新または修正を行う義務を負うものではありません。

お問合せ先

インフォシスリミテッド 東京オフィス

担当 安藤 jo_ando@infosys.com